



2014年5月20日

## おきぎん県内景況・確報 2013年度

2013年度は、建設関連や観光関連で堅調な動きが続く中、個人消費においても耐久消費財等への需要に強さが増していることなどから「県内景況は拡大している」となりました。

### ○個人消費関連

スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は「全店ベース」、「既存店ベース」ともに前年度を上回る。  
百貨店売上高も前年度を上回る。  
家電卸出荷額…太陽光パネル需要や消費税増税前の駆け込み需要などにより前年度を上回る。  
新車販売台数…レンタカー需要や新商品（新車種、モデルチェンジ等）需要が好調に推移したほか、消費税増税の駆け込み需要なども加わり前年度を上回る。

### ○建設関連

公共工事…国やその他の公共的団体発注工事が増加し、前年度を上回る。  
住宅投資・建設資材…着工戸数は前年度を上回り、生コン、セメントもともに上回る。

### ○観光関連

入域観光客数…2年連続で前年度を上回り、過去最高を更新。  
主要大型ホテル稼働率…シティホテル、リゾート、ビジネスのすべてにおいて前年度を上回る。  
観光施設入場者数…3年連続で前年度を上回る。

### ○倒産・雇用

企業倒産…件数は前年度を上回り、負債総額は下回る。  
有効求人倍率…沖縄県、全国ともに前年度を上回る。

### ○生産関連

鉱工業生産…沖縄県（4～翌2月数値平均の比較）は前年度を上回り、全国も上回る。  
大口電力使用量…前年度を上回る。

○物価関連…消費者物価指数は前年度を上回り、ガソリン（レギュラー、軽油）も上回る。

## 現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・確報 (2013 年度分)

◎2013年度 おきぎん「カトリア」景況図



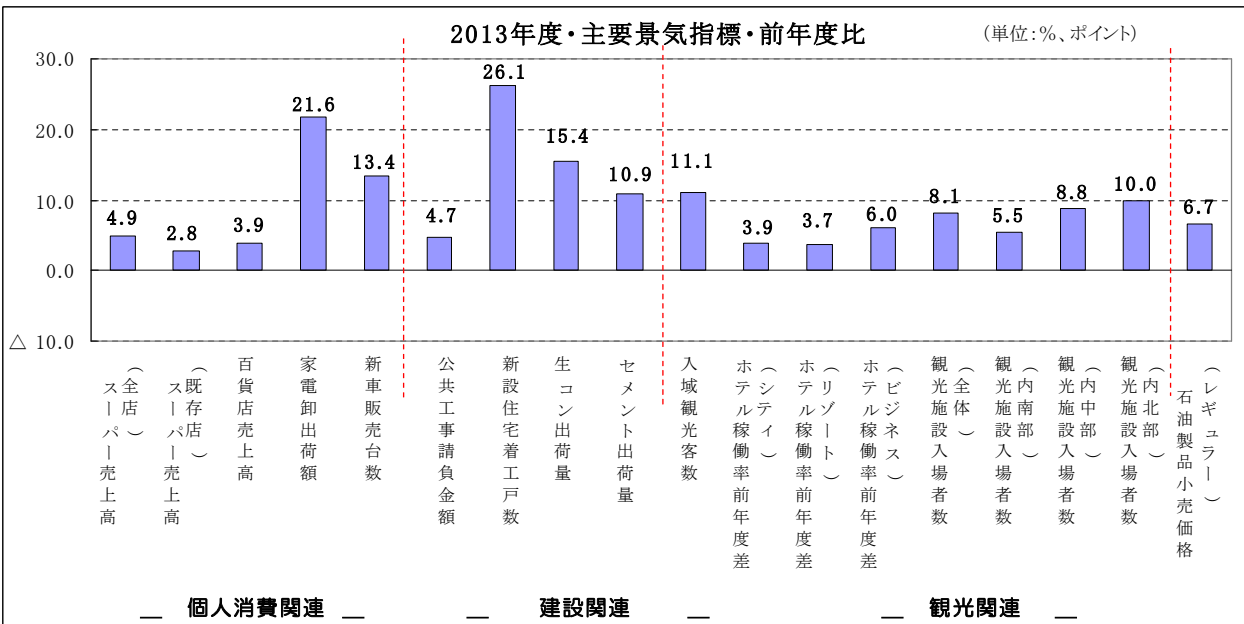
2013 年度の県内景況

**個人消費関連**では、スーパー売上高が「全店ベース」、「既存店ベース」ともに前年度を上回りました。百貨店売上高は主力である衣料品や身の回り品などが好調で前年度を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は太陽光パネル需要や消費税増税前の駆け込み需要などにより前年度を上回りました。新車販売台数はレンタカー需要や新商品需要(新車種、モデルチェンジ等)が好調に推移したほか、消費税増税前の駆け込み需要も加わり、前年度を上回りました。

**建設関連**では、公共工事請負金額が国やその他の公共的な団体による発注工事が増加し、前年度を上回りました。新設住宅着工戸数もウェイトの高い貸家等が押し上げ前年度を上回りました。建設資材関連である生コン、セメントもともに前年度を上回りました。

**観光関連**では、入城観光客数は 2 年連続で前年度を上回り、過去最高を更新しました。ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルの全てで前年度を上回りました。観光施設入場者数は 3 年連続で前年度を上回りました。

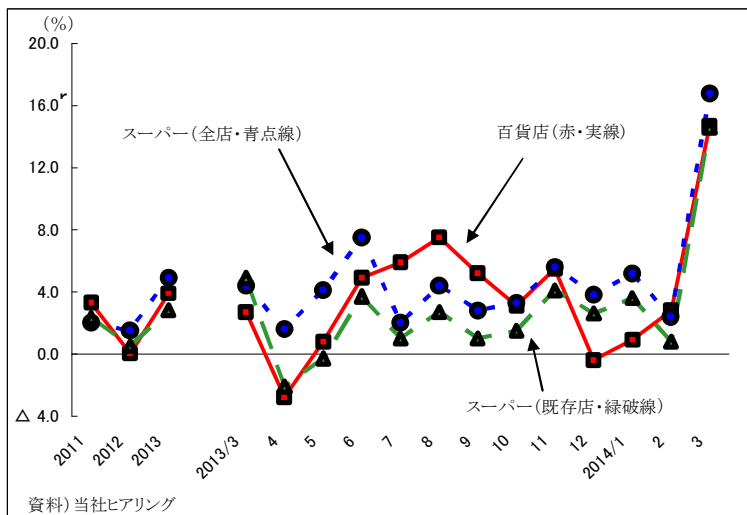
このように 2013 年度は、建設関連や観光関連で堅調な動きが続く中、個人消費においても耐久消費財等への需要に強さが増していることなどから「**県内景況は拡大している**」と、昨年度の「**県内景況は回復力が強まっている**」から景気判断を上方修正しました。



■個人消費: (良い)

①スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年度を上回る。百貨店売上高は前年度を上回る。

年度/月	単位:%		
	スーパー売上高 全店	スーパー売上高 既存店	百貨店 売上高
2011	2.0	2.3	3.3
2012	1.5	0.5	0.02
2013	4.9	2.8	3.9
2013/3	4.4	4.9	2.7
4	1.6	2.1	2.8
5	4.1	0.3	0.8
6	7.5	3.7	4.9
7	2.0	1.0	5.9
8	4.4	2.7	7.5
9	2.8	1.0	5.2
10	3.3	1.5	3.1
11	5.6	4.1	5.5
12	3.8	2.6	0.4
2014/1	5.2	3.6	0.9
2	2.4	0.8	2.8
3	16.8	14.6	14.7



注) 前年度比、前年同月比

**2013年度の個人消費関連\***において、**スーパー売上高**は、「全店ベース(前年度比 4.9%増)」が新店舗効果などにより前年度を上回りました。ウェイトの高い「食料品(同 4.5%増)」や「衣料品(同 3.1%増)」、「家庭用品(同 7.8%)」が前年度を上回りました。

「既存店ベース(同 2.8%増)」では前年度を上回りました。品目別(以下、既存店ベース)でみると、ウェイトの高い「食料品(同 2.0%増)」は、6月～9月の期間において、前年度よりも台風襲来の影響(臨時休業、営業時間短縮、来店客数減少)が今年度は少なかったことなどから売上げが堅調に推移したほか、青果物の相場高(10月～12月)や消費税増税前の駆け込み需要(3月)も加わり、前年度を上回りました。「衣料品(同 1.6%増)」も、台風襲来の影響が少なかったことなどから夏物衣料の売れ行きが好調に推移したほか、年末の気温低下による冬物衣料の需要増加、さらに3月の消費税増税前の駆け込み需要も加わり、前年度を上回りました。家電を含む「家庭用品(同 6.6%増)」は、晴天日が多く気温が高かった(6月、8月、9月)ことに加え、消費税増税を見越した新築住宅の増加などにより(11月～3月)、エアコンや冷蔵庫、洗濯機などの白物家電の売上げが好調で前年度を上回りました。

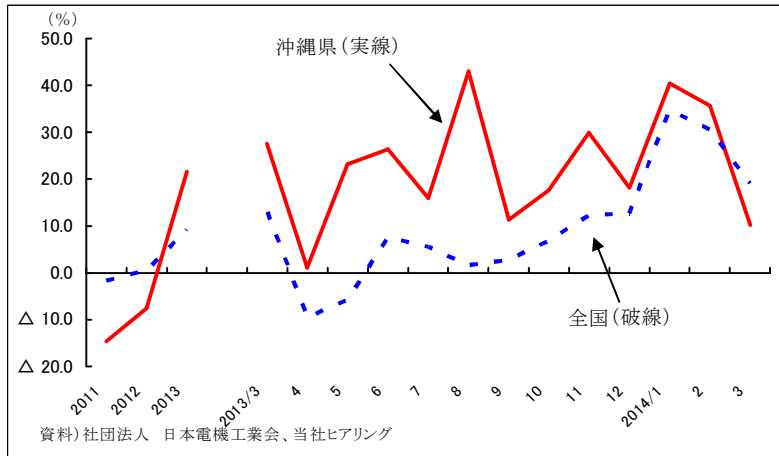
※注1) スーパー売上高(既存店ベース)については、2009年12月よりデータ集計法を変更し、月次データの公表時は速報値であるため、公表後に確定値として改訂する場合があります。従って、時系列で利用する際は最新の公表データを参照すること。

**2013年度の百貨店売上高**は、「衣料品」や「身の回り品」などが好調で前年度を上回りました(前年度比 3.9%増)。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品(同 3.5%増)」は、梅雨明けが前年度より早かったことや、台風の影響(臨時休業、営業時間短縮、来店客数減少)が今年度は少なかったことなどにより夏物・秋物衣料の売れ行きが好調で前年度を上回りました。また、3月には消費税増税前の駆け込み需要なども加わり、「婦人服(同 2.3%増)」、「紳士服(同 3.8%増)」、「子供服(同 2.4%)」が前年度を上回りました。「身の回り品(同 10.6%増)」や「雑貨(同 6.2%増)」は、販売促進活動の効果(広告強化、セール回数増加など)や消費税増税前の駆け込み需要などにより前年度を上回りました。「食料品(同 1.6%増)」は、お中元やお歳暮などのギフト関連商品の売れ行きが堅調に推移したことなどから前年度を上回りました。

②家電卸出荷額…太陽光パネル需要や消費税増税前の駆け込み需要などにより、前年度を上回る。

単位: %		
年度/月	沖縄県	全国
2011	△ 14.7	△ 1.7
2012	△ 7.5	0.5
2013	21.6	9.3
2013/3	27.5	13.0
4	1.1	△ 9.6
5	23.2	△ 5.7
6	26.3	7.6
7	15.9	5.6
8	43.0	1.6
9	11.3	2.8
10	17.6	6.8
11	29.9	12.3
12	18.2	12.7
2014/1	40.4	34.7
2	35.6	30.6
3	10.2	19.1

注)前年度比、前年同月比



資料) 社団法人 日本電機工業会、当社ヒアリング

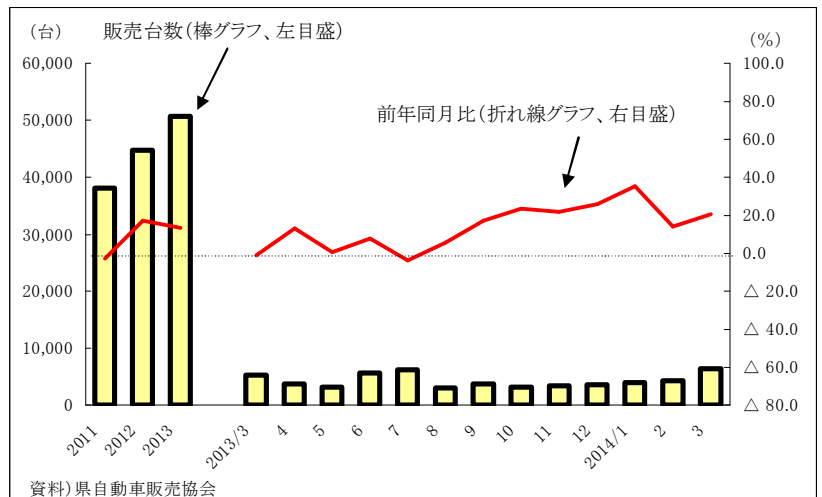
**2013年度の家電卸出荷額**は、太陽光パネル需要が年度全体を通して好調だったほか、年度後半には消費税増税前の駆け込み需要(エアコン・冷蔵庫・洗濯機等)も加わり、前年度を上回りました(同 21.6%増)。品目別で見ると、「太陽光パネル(同 45.2%増)」は、2012年7月1日にスタートした「再生可能エネルギーの固定買取価格制度」の影響などにより需要が増加し、前年度を上回りました。「エアコン(同 19.6%増)」は、夏場の気温上昇や消費税増税を見越した新築物件(アパート、ホテル、住宅等)増加などにより需要が増加し、前年度を上回りました。「冷蔵庫(同 25.4%増)」や「洗濯機(同 10.0%増)」は、キャンペーンなどの販売促進活動が奏功したほか、増税前の需要増加に伴い家電量販店などにおいて在庫確保の動きが活発化したことから、前年度を上回りました。また、アナログ放送終了(2011年7月24日)以降、需要低迷が続いていた「テレビ(同 6.6%増)」も、年度中盤から8ヵ月連続(2013年8月～2014年3月)で前年同月を上回り、前年度を上回りました。

③新車販売台数…レンタカー需要や新商品需要に消費税増税前の駆け込み需要も加わり、前年度を上回る。

単位: 台、%					
年度/月	台数	合計	普通乗用車	小型乗用車	軽乗用車
2011	38,170	△ 2.8	△ 11.5	3.0	△ 4.9
2012	44,696	17.1	8.6	8.9	27.9
2013	50,686	13.4	19.8	16.1	8.3
2013/3	5,377	△ 1.1	△ 7.9	△ 6.4	4.5
4	3,763	13.2	△ 7.6	30.2	8.7
5	3,217	0.5	13.2	△ 3.8	△ 2.0
6	5,620	7.8	30.9	27.0	△ 13.4
7	6,267	△ 3.7	△ 7.8	△ 2.4	△ 9.2
8	3,023	5.8	△ 14.3	2.5	6.6
9	3,808	17.2	4.2	24.1	14.6
10	3,226	23.5	37.2	52.4	12.6
11	3,356	21.9	46.3	12.8	16.9
12	3,689	26.1	51.9	24.9	23.7
2014/1	3,929	35.4	54.4	61.6	24.4
2	4,307	14.1	43.0	△ 7.2	17.1
3	6,481	20.5	26.1	23.1	15.8

注)前年度比、前年同月比

注)普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。



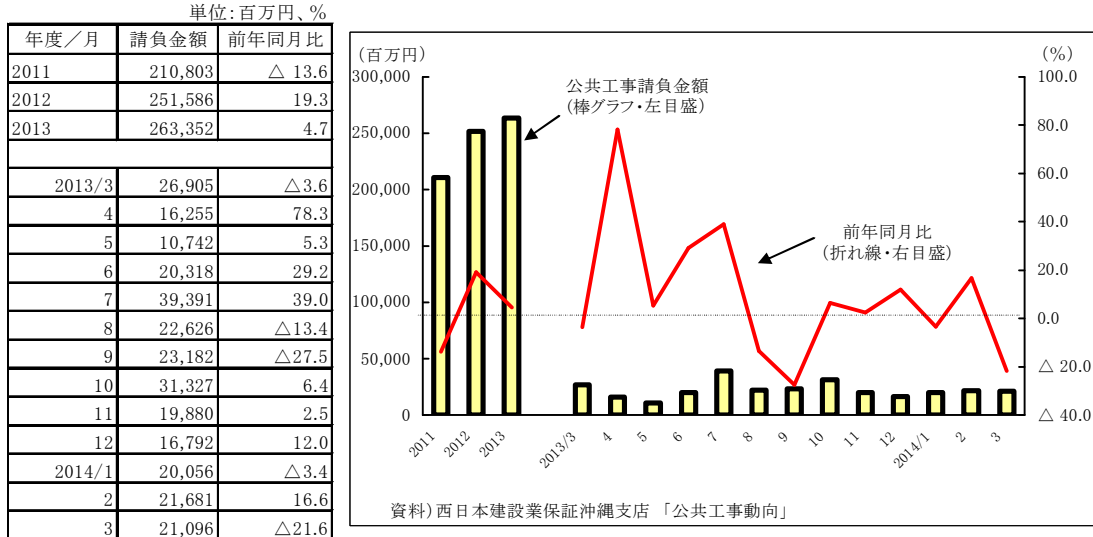
資料) 県自動車販売協会

**2013年度の新車販売台数**は、全体で 50,686 台となり、前年度より 13.4%増加しました。年度序盤はエコカー補助金制度終了の影響など、一部押し下げ要因がみられたものの、年度全体ではレンタカー需要や新商品(新車種、モデルチェンジ等)需要が好調に推移したほか、消費税増税前の駆け込み需要(2014年1月～2014年3月)も加わり、前年度を上回りました。「普通乗用車(同 19.8%増)」、「小型乗用車(同 16.1%増)」、「軽乗用車(同 8.3%増)」など、全ての車種で前年度を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

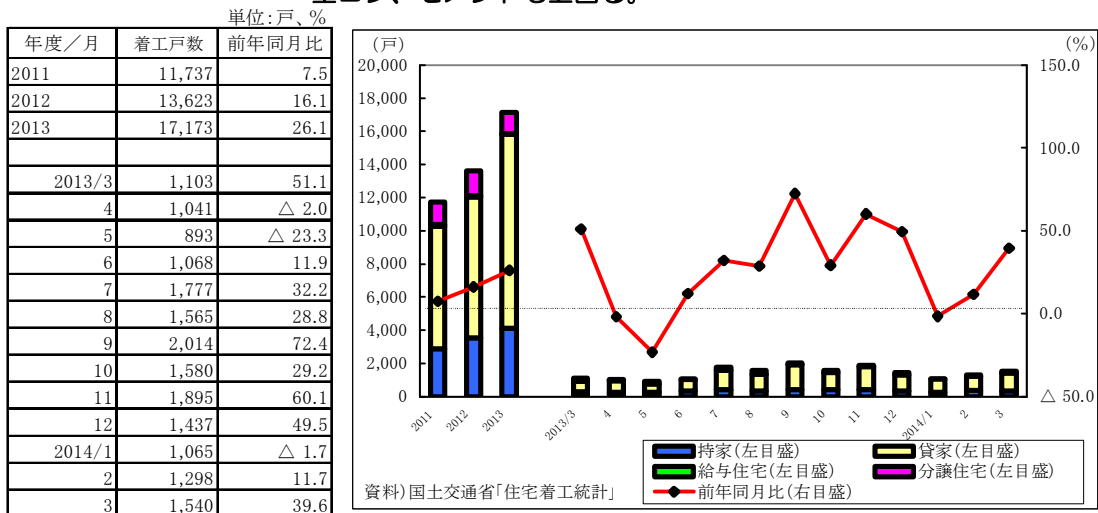
■建設関連:  (良い)

①公共工事…国やその他の公共的団体発注による工事が増加し前年度を上回る。



2013年度の公共工事請負金額は、前年度比 4.7%増の 2,633 億 52 百万円と前年度を上回りました。発注者別請負金額でみると、「国(同 17.3%増)」は高架橋関連工事、「独立行政法人等(同 48.5%増)」は沖縄自動車道関連工事、「沖縄県(同 1.8%増)」は新石川浄水場関連工事、「その他の公的団体(同 42.5%増)」は沖縄科学技術大学院大学関連工事の大型工事などにより前年度を上回りました。一方、「市町村(同 7.6%減)」は昨年あった那覇市内での市営住宅建替工事や宮古島市でのごみ焼却施設等建設工事の反動などにより下回りました。

②住宅投資・建設資材…貸家や持家増加等により着工戸数は前年度を上回り、生コン、セメントも上回る。



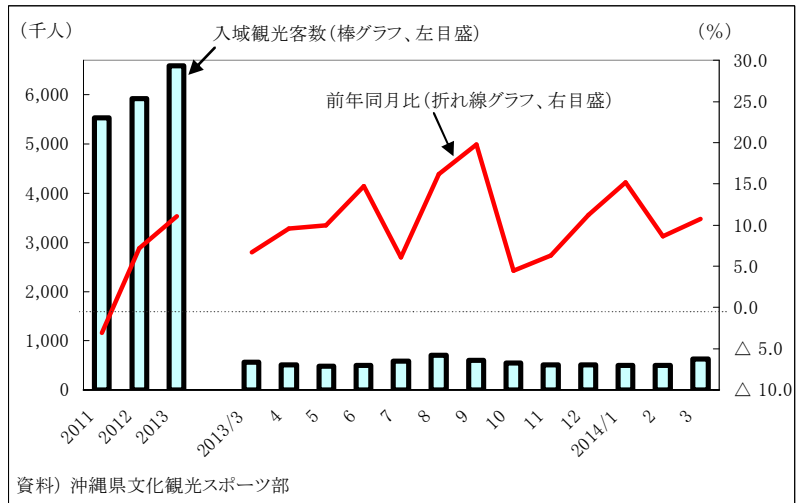
2013年度の新設住宅着工戸数は、全体で 17,173 戸と前年度より 26.1% 上回りました。内訳では、「分譲住宅(同 11.7%減)」や「給与住宅(同 53.7%減)」が前年度を下回ったものの、ウェイトの高い「貸家(同 37.3%増)」や「持家(同 16.6%増)」が前年度を上回り、全体を押し上げました。建設資材関連でも、生コンは前年度比 15.4%増、セメントも同 10.9%増と前年度の出荷実績を上回りました。

■観光関連:  (良い)

①入域観光客数…2年連続で前年度を上回り、過去最高を更新。

単位:千人、%		
年度/月	入域観光客	前年同期比
2011	5,528.0	△ 3.1
2012	5,924.7	7.2
2013	6,580.3	11.1
2013/3		
3	568.9	6.7
4	516.3	9.6
5	477.6	10.0
6	489.1	14.7
7	583.9	6.1
8	705.5	16.2
9	607.4	19.7
10	543.0	4.5
11	513.6	6.3
12	515.5	11.2
2014/1		
1	495.1	15.2
2	503.1	8.6
3	630.2	10.8

※外国客は特定上陸者数を含む



資料) 沖縄県文化観光スポーツ部

**2013年度の入域観光客数**は、658万人(前年度比11.1%増)となり、2年連続で前年度を上回り、過去最高を更新しました。内訳をみると、国内客は595.3万人(同7.4%増)となりました。官民一体となった観光プロモーションの強化、円安基調及び景況感の上向きによる国内旅行需要の増加、LCC就航及び南ぬ島石垣空港開港(2013年3月)に伴う航空路線の拡充に加え、沖縄本島への台風接近が少なかったことなどから、前年度を上回りました。

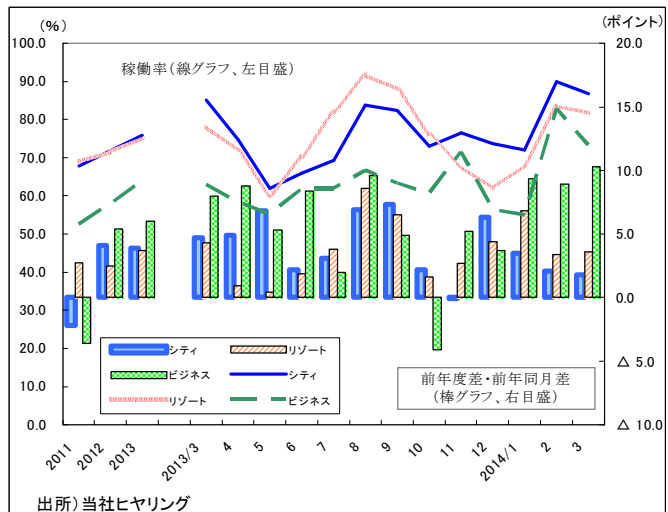
外国客は62.7万人(同64.0%増)と、前年度を大幅に上回り2年連続で過去最高を更新しました。円安による訪日旅行需要の拡大や航空路線の拡充に加え、2012年9月に起こった尖閣諸島問題により落ち込んだ中国客も年央より回復し、海路・空路ともに好調に推移し、各地域で前年度を上回りました。「台湾(同70.1%増)」「韓国(同118.2%増)」「中国本土(同16.6%増)」「香港(同64.4%増)」

※特定上陸者を除く2013年度実績=全体649.8人(同10.8%増)、外国客54.4人(同69.3%増)、国内客は変わらない。

②ホテル稼働率…シティホテル、リゾート、ビジネスのすべてで前年度を上回る。

単位:%,ポイント						
	稼働率			前年差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2011	67.8	69.0	52.6	△ 2.2	2.7	△ 3.6
2012	71.9	71.5	58.0	4.1	2.5	5.4
2013	75.8	75.2	64.0	3.9	3.7	6.0
2013/3						
3	85.0	78.1	63.0	4.7	4.3	7.9
4	74.6	71.9	58.5	4.9	0.9	8.8
5	62.0	60.0	55.2	6.8	0.4	5.3
6	65.9	70.1	61.9	2.2	1.9	8.4
7	69.4	82.1	62.0	3.1	3.8	2.0
8	83.8	91.7	66.7	6.9	8.6	9.6
9	82.4	88.0	63.3	7.3	6.5	4.9
10	73.0	76.2	60.6	2.2	1.6	△ 4.1
11	76.6	67.7	71.6	△ 0.1	2.7	5.2
12	73.7	62.0	56.4	6.3	4.4	3.7
2014/1						
1	72.0	68.0	55.1	3.5	6.8	9.3
2	90.0	83.5	82.9	2.1	3.4	8.9
3	86.8	81.7	73.3	1.8	3.6	10.3

注)シティ10ホテル、リゾート19ホテル、ビジネス7ホテル  
※調査対象施設変更により2011年に遡りシティ、リゾートを修正。  
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。



**2013年度の県内ホテル稼働率**は、シティホテルが75.8%と前年度差3.9ポイント上昇、リゾートホテルが75.2%と同3.7ポイント上昇、ビジネスホテルが64.0%と同6.0ポイント上昇し全てにおいて前年度を上回りました。

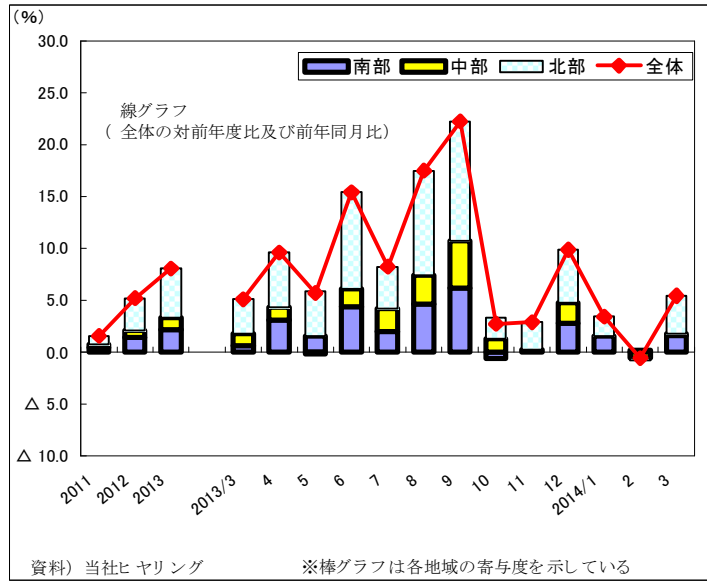
※2013年6月に対象施設を変更し、シティホテル・リゾートホテルは2011年に遡って改定した。

③観光施設入場者数…3年連続で前年度を上回る。

単位:%

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2011	1.6	1.1	2.2	1.9
2012	5.2	3.6	4.8	6.7
2013	8.1	5.5	8.8	10.0
2013/3	5.1	1.5	8.6	7.4
4	9.6	7.8	8.1	11.7
5	5.7	3.7	△1.1	9.7
6	15.4	10.6	14.5	19.9
7	8.2	5.9	18.6	7.5
8	17.5	13.2	21.2	19.4
9	22.2	17.4	38.6	21.9
10	2.7	△1.4	10.2	4.6
11	2.9	0.6	0.0	6.1
12	9.9	6.5	14.4	11.6
2014/1	3.4	4.0	△0.1	4.0
2	△0.6	0.6	△4.0	△0.5
3	5.4	4.1	1.2	8.0

\* 調査対象施設数=南部6、中部6、北部5施設  
グラフは全体の寄与度を表示。

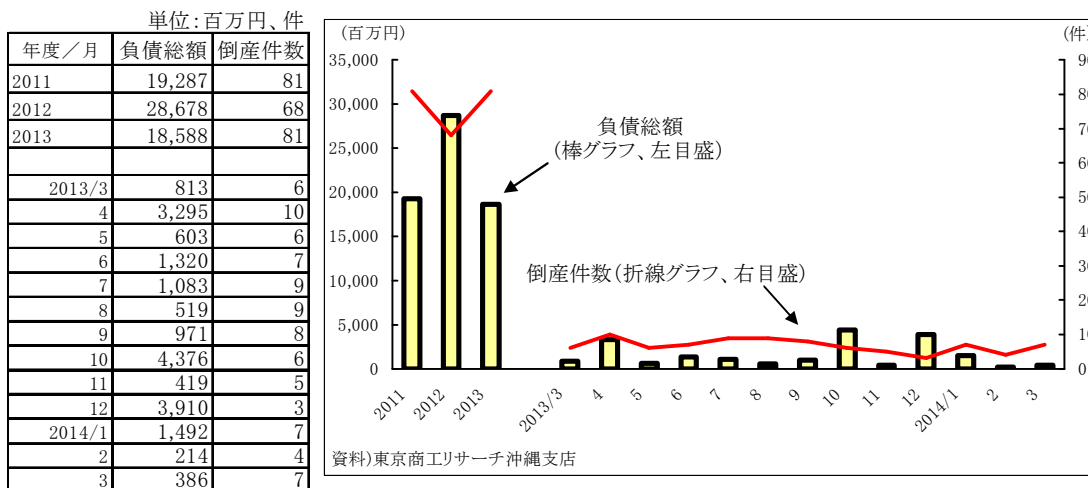


**観光施設入場者数**は、全体として前年度比 8.1%増加し、3年連続で前年度を上回りました。航空路線の拡充など、過去最高となった入域観光客数の増加に伴い、前年度実績を上回りました。

地域別では、南部にある観光施設が同 5.5%増(3年連続)、中部が 8.8%増(3年連続)、北部が同 10.0%増(3年連続)で全ての地域で前年度を上回りました。

■企業倒産:  (ふつう)

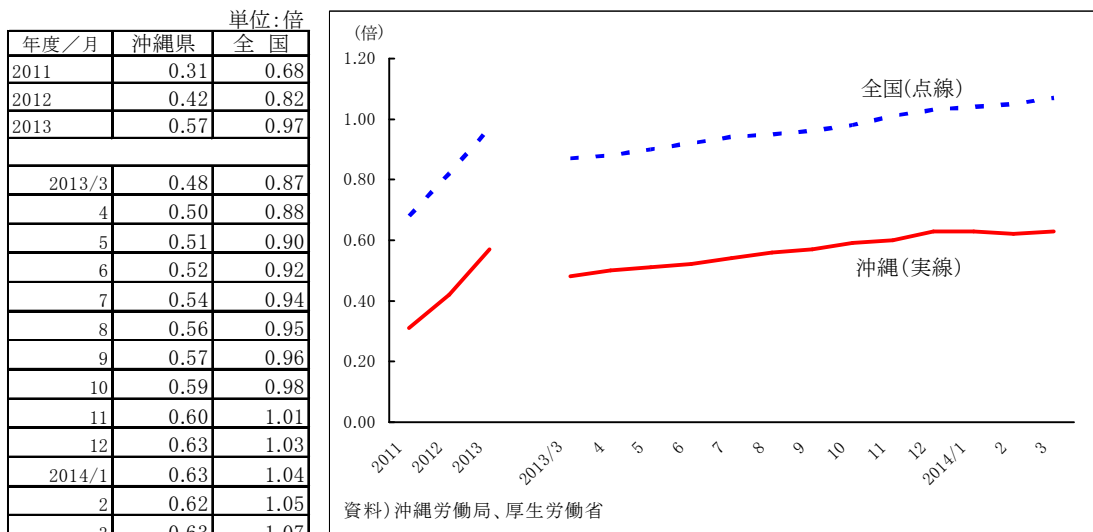
企業倒産…件数は前年度を上回り、負債総額は下回る。



2013年度の企業倒産は、81件(前年度比19.1%増)発生し、負債総額では185億88百万円(同35.2%減)となりました。件数は前年度を上回ったものの、負債総額については前年度にあった大型倒産の反動などにより、前年度を下回りました。

■雇用関連:  (やや良い)

有効求人倍率…沖縄、全国ともに前年度を上回る。



注1)月別の数値は季節調整値、年度平均は原数値  
注2)季節調整法は、センサス局法II(X-12-ARIMA)による

2013年度の雇用状況は、月間有効求人数(原数値)が前年度比22.2%増の18,237人に対して、月間有効求職者数(同上)は同9.9%減の31,855人となり、有効求人倍率は0.57倍と前年度より0.15ポイント上昇しました。

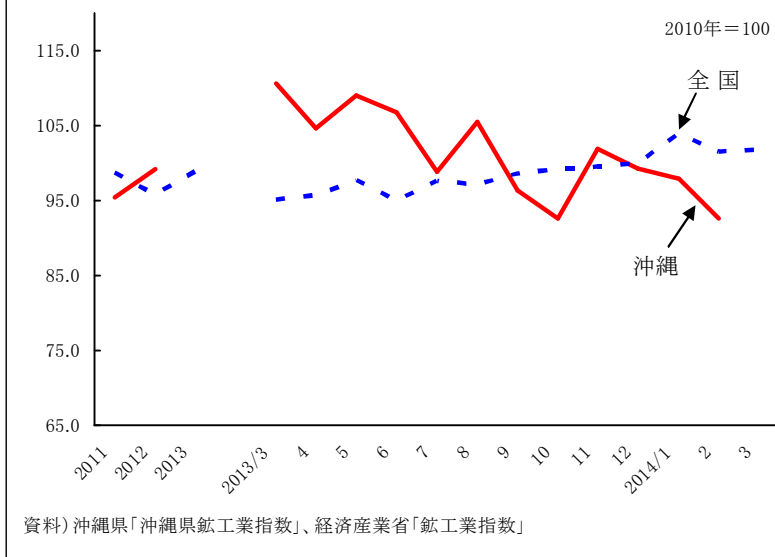




■ 鉱工業・大口電力関連: (ふつう)

① 鉱工業生産指数…沖縄県、全国ともに前年度を上回る。

年度/月	沖縄県	全国
2011	r 95.4	98.7
2012	r 99.2	95.8
2013	-	P 98.9
2013/3	110.6	95.1
4	104.6	95.7
5	109.0	97.7
6	106.8	95.0
7	98.8	97.6
8	105.5	97.1
9	96.3	98.6
10	92.6	99.2
11	101.9	99.5
12	99.3	100.0
2014/1	97.9	103.9
2	92.6	101.5
3	-	P 101.8



注1) 基準は2010年=100、注2) P⇒速報値

注3) 月別は季節調整値、年度は原数値平均値(4～翌年3月)

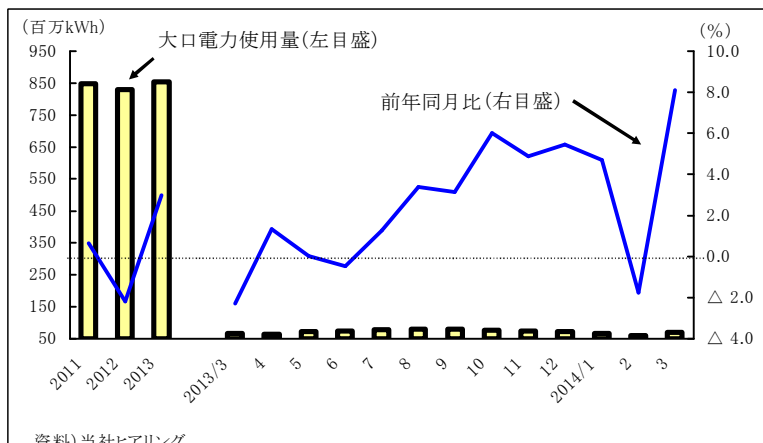
2013年度(4～翌年2月までの11ヵ月平均)の鉱工業生産指数<sup>\*</sup>は、前年度比2.6%上昇し99.0(原指数)となりました。業種別でみると、主に「窯業・土石製品工業(同11.5%増)」、「プラスチック製品工業(同13.5%増)」や「その他の工業(同11.3%増)」などが前年度を上回りました。

※本文内の数値については、現時点で2014年3月(沖縄県)データが公表されていないため、2013年4月～2014年2月までの11ヵ月数値平均と前年度同期間の数値比較を行っています。

② 大口電力使用量…前年度を上回る。

単位: 百万kWh, %

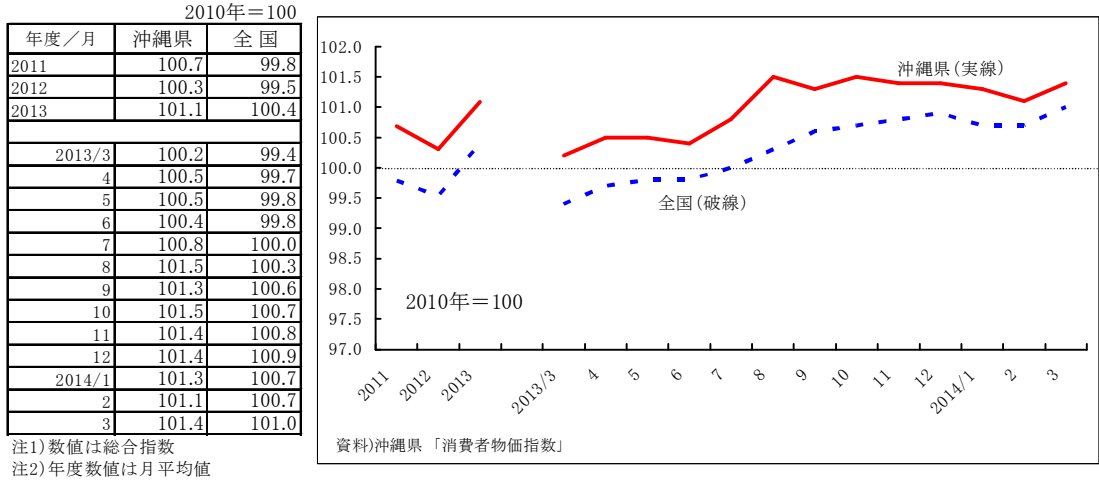
年度/月	大口電力使用量	前年度比
2011	849.3	0.7
2012	830.8	△ 2.2
2013	855.6	3.0
2013/3	64.0	△ 2.3
4	63.7	1.3
5	71.7	0.0
6	72.6	△ 0.5
7	76.6	1.3
8	78.9	3.4
9	79.2	3.1
10	75.5	6.0
11	73.3	4.9
12	70.0	5.4
2014/1	65.1	4.7
2	59.7	△ 1.8
3	69.2	8.1



2013年度の大口電力使用量は、前年度比3.0%増の855.6百万kWh(キロワットアワー)となりました。産業別にみると、「石油・石炭製造業(同15.3%減)」が稼働の減少などで前年度を下回ったものの、「窯業土石製造業(同12.8%増)」や「鉄鋼製造業(同12.3%増)」が生産量の増加などにより前年度を上回り、全体を押し上げました。

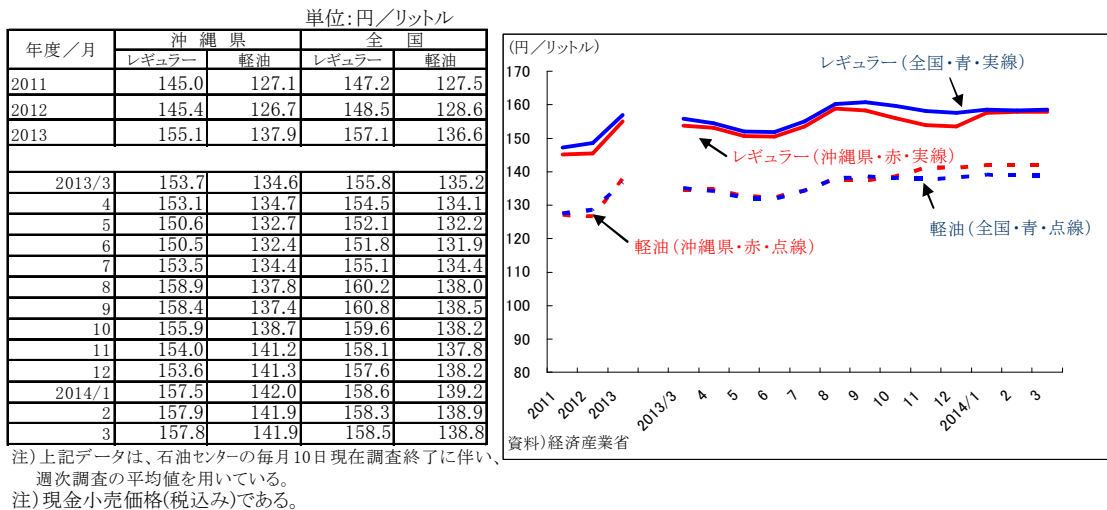
■物価関連:  (ふつう)

①消費者物価指数…沖縄、全国ともに前年度を上回る。



2013年度の消費者物価指数は、前年度より0.8%上昇し101.1となりました。内訳をみると、生鮮食品を含む「食料品(同 1.4%増)」や、電気代やガス代を含む「光熱・水道(同 2.3%増)」、燃料代などを含む「交通・通信(同 2.0%増)」などが前年を上回りました。全国は前年度比0.9%上昇し100.4となり、沖縄県内と同様に、生鮮食品を含む「食料(同 0.8%増)」、電気代などの「光熱・水道(同 5.4%増)」等で上昇し、全体でも前年を上回りました。

②石油製品小売価格…レギュラー、軽油ともに前年度を上回る。



2013年度の石油製品小売価格は、円安などの為替動向、原油高騰などを背景に、レギュラー・軽油の小売価格ともに前年度を上回りました。詳細をみると、レギュラー価格が前年度比6.7%増(全国は5.8%増)、軽油価格は同8.8%増(同6.2%増)となりました。